



平成30年11月12日

各位

会社名 チエル株式会社
 代表者名 代表取締役社長 川居 睦
 (証券コード 3933 東証 JASDAQ)
 問合せ先 取締役 若松 洋雄
 (TEL. 03-6712-9721)

平成31年3月期第2四半期累計期間の業績予想と実績の差異、特別損失の計上、
 通期業績予想の修正及び中期経営計画に関するお知らせ

当社は、平成30年5月15日に公表しました平成31年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想値と本日公表の実績値との間に生じた差異とともに、当該差異要因に含まれる特別損失（減損損失）の計上についてお知らせいたします。あわせて、平成31年3月期の通期の連結業績予想について、下記のとおり修正するとともに、平成30年5月15日に公表いたしました中期経営計画の数値目標を取り下げることと決議しましたので、お知らせいたします。

1. 特別損失（減損損失）の計上

当社は、当第2四半期累計期間において、小学校・中学校市場向けに展開している授業・学習支援システム「らくらく先生シリーズ」について販売状況等を基にソフトウェア資産計上額の厳格な評価を行い、減損損失89百万円を特別損失に計上いたしました。

2. 平成31年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異

(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり連結四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,021	50	108	83	21.46
実績値 (B)	815	△126	△120	△151	△39.54
増減額 (B-A)	△205	△176	△228	△234	△61.00
増減率 (%)	△20.1	—	—	—	—
(参考) 前期実績	967	53	120	101	26.60

3. 平成31年3月期の連結業績予想の修正

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,200	220	265	190	49.13
今回修正予想 (B)	1,869	1	0	△33	△8.61
増減額 (B-A)	△331	△219	△265	△223	△57.74
増減率 (%)	△15.0	△99.5	△100.0	—	—
(参考) 前期実績	2,005	201	253	183	47.93

4. 平成31年3月期第2四半期累計期間における連結業績予想と実績との差異要因

当第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異の要因は次のとおりとなります。

海外における業績は、講義支援システムの販売が低調であったため、当初計画を58百万円下回りました。また、国内の受注案件に占める複数年契約の比率が想定より高まったことで、会計上の売上高に計上される金額が当初想定より96百万円減少しました。なお、当該受注分は前受金に計上されており、今後契約期間に応じて売上高に按分計上されてまいります。さらに、一部の案件で出荷の遅延が発生したことで、予定していた売上高50百万円の計上が下期に変更となりました。以上の結果、当第2四半期累計期間における連結売上高は、前回予想1,021百万円に対し、815百万円（前回予想比205百万円減少）となりました。

また、当該連結売上高の減少に伴い、当第2四半期累計期間における連結営業損益は、前回予想の営業利益50百万円に対し、営業損失126百万円（前回予想比176百万円減少）となりました。

持分法による投資利益は、予想58百万円に対して51百万円減少の6百万円となりました。この結果、当第2四半期累計期間における連結経常損益は、前回予想の経常利益108百万円に対し、経常損失120百万円（前回予想比228百万円減少）となりました。

減損損失89百万円を特別損失に計上したことで、当第2四半期累計期間における税金等調整前四半期純損益は、予想の税金等調整前四半期純利益108百万円に対して318百万円減少の税金等調整前四半期純損失210百万円となりました。また、法人税等を加減した結果、当第2四半期累計期間における親会社に帰属する四半期純損益は、前回予想の四半期純利益83百万円に対し、四半期純損失151百万円（前回予想比234百万円減少）となりました。

5. 平成31年3月期の連結業績予想の修正の理由

下期においては、当第2四半期累計期間から引き続き、国内受注案件に占める複数年契約の比率が高まることで、会計上の売上高が前回予想時より54百万円減少する影響を見込みます。また、海外における講義支援システムの販売の低調傾向が続くことから、海外の売上高は前回予想時より26百万円減少すると見込みます。さらに子会社の売上高を前回予想より46百万円減少すると見込みます。これらを要因として、下期における

連結売上高を前回予想値 1,179 百万円より 126 百万円減少の 1,053 百万円へ修正いたしました。

第 2 四半期累計期間の実績に下期の見通しを加えた結果、平成31年 3 月期の連結業績予想を修正することといたしました。

6. 中期経営計画について

当社は、平成 30 年 5 月 15 日に「中期経営計画 2019 年 3 月期～2021 年 3 月期」を公表いたしました。当該計画において、2021 年 3 月期に連結売上高 3,000 百万円、連結経常利益 350 百万円、親会社株主帰属する当期純利益 240 百万円を計画しておりましたが、平成 31 年 3 月期の業績と当初の計画に差異が生じると予想されることから、今後の収益の実現可能性について慎重な検討を要するとの判断にいたりました。そのため、当該計画に記載されている施策については現行の基本方針を堅持するものの、数値目標は一旦取り下げた上で、精査後に改めて策定した数値目標をお知らせいたします。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上